

2年次の探究活動（総合的な学習の時間）の実績

(1) テーマ 発展途上国の開発援助のための方策を探究する。

(2) 重点

⇨ICAによる講演

⇨名古屋大学訪問（英語プレゼン発表&留学生との交流）

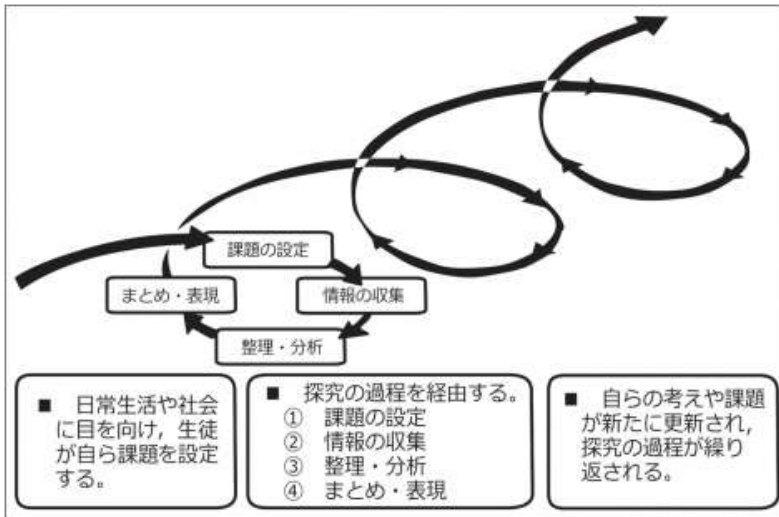
⇨名古屋外大学長の講演会（グローバルな視点について）

(3) ながれ

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
	テーマ・探究方法決定 L2:Undokai in Malawi	JICA 出前講座	探究		探究 + 日本語プレゼン	名大訪問英語プレゼン	クラス内プレゼン (コミュ英)	まとめ		

※赤字はコミュニケーション英語Ⅱの時間に実施（学習指導案に記載した部分）

(参考) 探究における生徒の学習の姿



学習指導要領第3章より

【JICA出前講座】

- (1) 日時 令和元年6月13日(木) 7限
- (2) 場所 岐阜北高等学校 2年生教室等
- (3) 講師 青年海外協力隊経験者
- (4) テーマ 「発展途上国の現状について」
- (5) 研修内容

発展途上国は現在どのような状況か、JICA 海外協力隊を経験された方々から、実体験に基づいた話をしていた。

水道をひねれば当然のこととして水が流れることが当たり前ではない場所が、この世界のどこかにあることに気づかされた。

支援において大切なことは次の4つである。

- ・現地の人の考え方や文化を理解する
- ・先進国のやり方が正しいという固定観念を捨てる
- ・誰のための支援か（自己満足になっていないか）
- ・長い目で見た支援を

(6) 生徒感想

すべての国・地域が日本と同じようだと考えてはいけないと感じた。

発展途上国に対して、ある一面から見て、浅い考えでの援助を行うことは、むしろ問題を引き起こしてしまうのではないかと思った。短期的な解決では、根本的な解決に至ることができない。



【名古屋大学訪問】

- (1) 日 時 令和元年10月31日(木) 3～7限
令和元年11月1日(金) 3～7限

- (2) 場 所 名古屋大学 国際開発棟

- (3) 交流団体 名古屋大学大学院国際理解教育プログラム (E I U P)

(4) 内 容

①「発展途上国の開発援助」について、リサーチを行い、プレゼンテーションを作成、発表準備をする。
(テーマは、教育、経済、政治、法律から選ぶ)

② 名古屋大学大学院国際理解教育プログラム (E I U P) との交流を実施。

10月31日、文系クラス4クラスが、名古屋大学を訪問。4クラスをAグループ、Bグループに分ける。

Aグループは前半はE I U Pとの交流を1時間、Bグループは大学見学を行う。後半1時間は、グループを入れ替えて行う。※次の日、理系クラスも同じ方法で実施する。

(5) 生徒感想

- ・伝えようとすれば伝わると思った。
- ・プレゼンテーションの場合は、かたまりで区切りながら話すとわかりやすい。
- ・自分たちで何度も見直して作ったプレゼンの原稿だったけど、大学院生にいろいろなことを指摘されて内容の薄さや商店の向け方の劣りなどを痛感した。また、人の前でプレゼンをすることは緊張して視線を聞き手に向けられなかった。
- ・英語をしっかりと勉強して、このグローバル社会に対応していけるようにしなければならないと感じた、
- ・世界の問題にももっと考えていきたい。
- ・英語を学ぶことで、将来自分の学んだことを学べることに繋がると思った。
- ・大学院生の方に「とてもいいテーマだ」と言われ、女子教育は今、世界の中で重要な改善すべき点だと思った。

